

こどもみらい館 第6期研究プロジェクト

心の育ちをつなぐ保幼小連携・接続(IN 大將軍小学校)

実施しました

平成16年度から推進してきた、こどもみらい館の研究事業。令和4年度からは「心の育ちをつなぐ保幼小連携・接続」をテーマに、第6期研究プロジェクトに取り組んでいます。今回、大將軍小学校の御理解・御協力で、保幼小の関係者が、1年生の授業を参観し、その後「子どもの連続した学びと育ちを円滑につなげるために」をテーマに、「心の育ち」に目を向け語り合うことができました。「子どもたちを真ん中にして、大人同士が語り合いつながりたい」「子どもの心に目を向け、その育ちを肯定的に捉えたい」という願いを持ち、子どもを真ん中にした大人同士の関係づくりの第一歩となりました。

目に見える力ではなく、主体としての心を育てたい

「私は私」「私は私達」という両面の心を備え、自分なりの折り合いをつけていけることが、人間形成の1番の目標ではないでしょうか。

主体としての両面の心をバランスよく育みたいものです。



第6期研究プロジェクトアドバイザー
大倉得史先生(京都大学大学院教授)

グループ討議のポイント

- ・子どもはそこでどんな体験をしどんなことを感じているか。
- ・子どもの家庭生活や学校以外での生活はどんなものか。
- ・子どもの育ちの歴史はどんなものか。
- ・教師や保育者の関わりが、子どもの心にどんなものを残すか。

それぞれの時期の子育てのプロが、連続的でスムーズなつながりを意識してほしい

参加者の声(アンケートより)

- ・卒園した子どもの様子を実際に見ることができ、自分の保育を振り返ったり、今の子どもたちへの関わりを改めて考える機会になりました。ありがとうございました。
- ・現場の先生と直接意見交換や想いを伝え合うことができて良かったです。こういうプロジェクトが今後もっと増えることを願っています。
- ・話し合いの視点が今まで考えもしなかったようなものだったのでとても新鮮でした。
- ・保・幼で大切にされていることを知り、「小学校」としての見方だけでなく、上手に取り入れ、活用していくことが大切であることを感じました。
- ・学びの姿を見たり、園での姿を伝えたりできる機会となりました。心を育てることで色々な場面に対応できる、その子らしさを活かせるように寄り添っていきたいです。
- ・小学校でも大切にしたいこととして心の部分の連続性を考えるきっかけとなりました。



第5回共同機構研修では、「保幼小連携・接続～あなたは何をはじめますか、架け橋期の子どもたちに～」をテーマに大林照明さん(佛教大学特任教授)にお話ししていただきます。是非御参加ください。(申込7/13～)

子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。

[京都はぐくみ憲章]より



この印刷物が
不要になれば
「雑がみ」として
古紙回収等へ！



発行日 令和5年7月7日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町 601-1
Tel : (075)254-5001 Fax : (075)212-9909
URL : <https://www.kodonomirai.city.kyoto.lg.jp/>

こどもみらい館 第6期研究プロジェクト

心の育ちをつなぐ保幼小連携・接続(IN たかつかさ保育園)

平成16年度から推進してきた、こどもみらい館の研究事業。令和4年度からは「心の育ちをつなぐ保幼小連携・接続」をテーマに、第6期研究プロジェクトに取り組んでいます。

6月に実施した大將軍小学校での取り組みに続いて、今回は、たかつかさ保育園を見学し、その後大將軍小学校へ移動し、エピソード検討会を実施しました。たかつかさ保育園が園を公開して下さったことで、就学前施設の横のつながりの大切さを再確認することができました。引き続き「子どもを真ん中にし、大人同士が語り合いつながりたい」「子どもの心に目を向け、その育ちを肯定的に捉えたい」という願いを持ち、保幼小連携・接続の取組を進めます。



たかつかさ保育園見学

- ・それぞれの子どもが、遊びを見つけ楽しめる環境の工夫
- ・季節を感じられる沢山の樹木のある園庭
- ・一人一人を大切にする職員集団と具体的な取組
- ・居場所を見つけ、落ち着ける環境
- ・保護者との取組

「素敵な環境、園児に添った生活。私も通いたい!と思う程でした。」

「他園へ行かせていただくことがほとんどなく、大変勉強になりました。」

大將軍小学校をお借りして エピソード検討会

池添園長のエピソード(こどもみらい館第5期研究プロジェクト冊子より)を使って実施しました。

『集団に馴染みづらい、と転園してきたしょう君。部屋から出ていく、給食は食べない、人とのやり取りは苦手、高い所が好きで危険がいっぱい。そんなしょう君が、集団遊びの時、保育者の呼びかけに「うんち」と言った。子どもはみんな大笑い。その時、保育者は…。』

自分ならどう関わるか、心を育てるとはどういうことか、といった視点で、エピソードや保育見学で感じた事などを話し合いました。

エピソードは
ホームページに掲載中

参加者の声(アンケートより)

- ・普段、他園の見学に行く機会はほとんどないので、とても刺激を受け、勉強させていただきました。
- ・たかつかさ保育園の素敵な施設や園庭の工夫を知ることができ、とても勉強になりました。
- ・エピソード検討会では、「私ならどうしたらだろう」と考えながら、子ども主体に関わることの大切さを、改めて考える機会になりました。
- ・実際の保育でのエピソードを知る事で、保育されている先生方の考え方や価値観を知ることができたのが、最も大きい収穫でした。
- ・エピソードを通じて、保育者の力量、観察眼、感性、感覚が、どれほど重要であるかを感じました。一人一人を大切にすること、そして全員が認められ、大切な一員であること。日々の保育を考えて行きたいと思いました。
- ・保幼小の接続をする中で、保幼の考え方、価値観を知る事は、我々小学校教員にはとても大切だと感じました。



子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。

[京都市はぐくみ憲章]より



この印刷物が
不要になれば
「雑がみ」として
古紙回収等へ!



発行日 令和5年10月12日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町 601-1
Tel : (075)254-5001 Fax : (075)212-9909
URL : <https://www.kodomomirai.city.kyoto.lg.jp/>